

平成二十年度 大学院文学研究科

国文学専攻 修士論文 題目

伊藤好美 大伯皇女研究

平成二十年度 文学部国文学科

卒業論文 題目

池田三枝子ゼミ

猪狩裕未 神功皇后論

——新羅征討までにみられる人物像——

石塚由紀 上代文学の死生観

——異郷訪問譚の観点から——

植田絵美 物語に生きる斎宮

——神に仕えた女性達——

大谷瞳 コノハナノサクヤビメ神話研究

——古事記を中心に——

大西夏美 高市皇子挽歌研究

——大伴旅人論——梅花宴を中心に——

岡部里美 額田王人物像

——蒲生野遊狐歌を中心に——

小淵登子 スクナビコナ研究

——額田王論——美女像の形成——

斎藤史帆

坂野綾美 『万葉民俗学研究』——袖振りの呪術——

笹森加奈子 大津皇子論——大伯皇女詠の境界——

高橋由里絵 万葉の死——人麻呂挽歌をめぐって——

立岡美架 筑波山研究——常陸国歌を中心に——

田中絢子 大伴坂上郎女研究

——恋愛の歌を中心に——

遠山香里 高市皇子研究

野瀬怜子 大伴旅人——讃酒歌を中心に——

野本麻絵 スサノヲ研究

廣田絵里 ヤマトタケル伝承論

——ヒメヒコ制の観点から——

山上友里 万葉恋歌研究

山崎慶子 大伴家持研究——歌わない家持——

若林沙知 『宴』における七夕歌

——山上憶良を中心に——

成川智恵 ウケヒ神話論——古事記を中心として——

三浦奈緒 黄泉考

影山輝國ゼミ

伊藤彩子 曹操の人物像

川越千紘  
——正史と逸話との比較考察——  
『列女伝』巻七孽嬖伝について

寺師香織  
——悪女と呼ばれた女たち——  
訓読『論語義疏』（大槻本）

野田瑠奈  
——顔淵篇——  
訓読『論語義疏』（大槻本）

山岸友美  
——子路篇——  
荀子の思想——孟子との比較を中心に——  
渡邊千尋  
儒教社会と女性——女訓書からの考察——

栗原敦ゼミ  
天野優子  
『智恵子抄』研究  
——光太郎と智恵子の愛の詩——

池本絵美  
石田衣良論——『池袋ウエストゲートパー  
ク』を中心に——

岩田悠子  
夏目漱石論  
——『こころ』の未来予想図——

大貫史子  
宮沢賢治『セロ弾きのゴーシュ』研究  
——ゴーシュは果たして成長したと言える  
のか?——

岡田みなみ

奥原里沙  
恩田陸論 作品の持つノスタルジアな世界  
観について  
——生と死の狭間で描く世界——  
太宰治研究

小幡由貴子  
小川洋子論——物語の世界観と魅力——  
柿澤優子  
戦闘妖精雪風におけるメタフィクション  
——機械は妖精になり得るか——

小池由華  
泉鏡花論  
——「縷紅新草」にこめたもの——  
鈴木綾乃  
『阿久悠の詞の世界』  
——歌は時代を語り続ける——

鈴木桜子  
長野まゆみ論  
——成長できない少年たち——

鈴木洋美  
武者小路実篤論  
——彼は描いた世界——  
瀬川唯  
シヨートシヨートの神様 星新一

竹内結子  
梶井基次郎研究——何を為すべきか——  
遠山知世  
女性の美

中村公美  
金子みすゞ研究  
——詩の中に見る悲しさ——

中村まり子  
灰谷健次郎論——『兎の眼』から見る灰谷の  
教育論——

堀部真理

雨ニモマケズ手帳研究〜賢治が手帳にこめた思い〜

小林美保

古今和歌集——色彩表現における心理・JPOPとの比較——

吉田友美

金子みすゞ——みすゞに見えた世界——

櫻井裕子

古今和歌集と和歌感情

立石奈々

岸田國士研究

佐藤いずみ

平安歌人の夢の歌〜男女における夢の違い〜

中野眸子

——戯曲という文学作品を通して——

菅沼亜弥

赤染衛門論

山本文緒研究

竹内さやか

「伊勢論」——恋歌に詠まれる四季・和泉式部との比較から——

近藤みゆきゼミ

厚川真由

「夢」の歌から見る男女の違い

塚田尚子

喪失をうたう——古今と風祭——

飯島寛

花鳥風月論——古今和歌集・男女の歌を中

宮崎咲耶

『古今和歌集』より いきものに馳せる思い

岩瀬邦子

平安女流歌人研究〜『花』『我が身』の歌

目黒真央

平安女流歌人 伊勢の涙

梅澤知世

『古今和歌集』恋歌に見る季節観

吉田瑛子

古今和歌集恋巻の歌ことば 歌ことばから見る巻別の特徴

大西雅子

『古今和歌集』における色彩

海谷朋実

古今和歌集恋歌論〜ことばからみた男と女の世界〜

小幡和代

和歌における桜——『古今和歌集』と『万葉集』の比較——

藤原香織

『枕草子』の美意識 「木の花は」を中心として

河澄明日香

和泉式部論——和歌から見た紫式部・伊勢・小野小町との比較——

風間あゆみ

『古今和歌集』恋歌から見る男の弱さとは〜命をかける男たちの恋と涙〜

串田友里恵

みやこ人の四季〜古今和歌集をひもとく〜

佐藤悟ゼミ

大澤道子

「京鹿子娘道成寺」

——人々に愛された魅力を探る——

小笠原愛

江島其積の研究

小野田友美

芭蕉俳諧の魅力の探求

川原末莉

『南総里見八犬伝』の研究〜大江親兵衛の英雄神話と挿絵の謎〜

小林明子

『酒餅論』について

——食に見る江戸文化——

菅原伸枝

『子孫大黒柱』研究

高橋あゆみ

累説話と祐天上人

渡邊久美子

河合曾良研究

阿部真穂

近松門左衛門の義理について

——『鐘の権三重帷子』を中心に——

酒井彩乃

『岩井櫛条野仇討』の世界——山東京伝における「ウブメ」について——

棚田輝嘉ゼミ

——清水義範・パステイリシユ論——

池田百絵

疼く女 所純官能小説における女性像

大貫歩純

大人になった今だから

——森絵都が描く世界の真ん中で——

加瀬友佳

愛を求めて……村上春樹作品における「ネ

ル」ことの意味

川窪えりか

『弱いからこそ生きている』

——太宰が訴える人間の本質——

木村歩夢

正しいネガティブな生き方

——太宰治が描いた「ひと」——

草間翔子

孤独を埋める冒険 村上春樹の性描写

黒澤舞

村上春樹論

——村上ワールドの棲人たち——

高橋知子

『恩田陸作品における人物像』

——男も女も人間だ——

中村香菜

『宿命との旅人』

——宮本輝が描く女性像について——

中山恵梨香

メタモルフォーゼ少女漫画研究論——半径

5 m・少女たちの華麗なる変身——

橋本侑子

ウラ・リアル鬼ごっこ

——山田悠介の恐怖に追われて——

長谷川真実

饒舌な輪郭——小川洋子論——

阿部絵里子

型にはまるといふ個性

東恵

美しいものには棘がある

——用例分類——

藤田加南

——谷崎文学 棘が刺さるもの——  
横光利一、文体の旅人

松澤菜美

——計量国文学的アプローチ——  
大人になってもう一度

福嶋健伸ゼミ

丸田玲実

——再び開く賢治ワールド——  
『恋愛とは生と死に限りなく近い』

飯島礼奈

漢字表記と意味の関係について——「な  
く」の漢字表記を中心に——

宮田由里子

——発狂した世界での恋愛とは——  
人間の生きる価値——伊坂幸太郎における  
人と神の在り方——

岩城綾香

女性語の文末表現から「役割」を分析する  
——『雪国』の駒子と『新世紀エヴァン  
ゲリオン』の葛城ミサトでは正反対の分  
布を示すものがある——

森山美央

寂しさと希望と——中原中也の「空」——  
いるふ女たち 京極夏彦における女性論

上野詩織

山形県庄内地方に住む日本語学習者に地域  
語教育は必要か——日本人と外国人から  
見た「地域語の壁」——

矢野智美

妖怪シリーズを中心に

梅澤和子

女性の名前の変遷——「子」はいなく  
なってしまうのか——

山本亜利沙

北川悦吏子の恋愛療法

梅津愛美

カタカナ語の受容パターンの分析

吉田佳那子

『蒼穹に輝く昂をさがして』  
——歴史を背負った者たち——

大園倫子

——意味の縮小と拡大——  
日本語教科書とテレビドラマにおける文末  
表現の男女差

平戸佑圭

現代女性シンガーソングライターの歌詞分  
析

大滝美和子

現代日本語におけるカタカナ表記の意味  
——「携帯」と「ケータイ」で違いはあ

田中瑤子

村上春樹の「二つの世界」とその意味する  
もの

河井亜里紗

山本文緒文学におけるファッション

河井亜里紗

山本文緒文学におけるファッション

大滝美和子

現代日本語におけるカタカナ表記の意味  
——「携帯」と「ケータイ」で違いはあ

るのか——

岡本桂

過去の事態を表さない夕形について

岡本紗耶

和製英語と本当の英語の違いについて

——和製英語度という分析方法をもちい

て——

乙訓沙緒里

児童向け日本語教科書に見られる日本語の

不自然さ

小桂春花

少女漫画に見られる場面と台詞の関係

——ヒロインがカチンとくる台詞とド

キツとくる台詞——

小高麻美

岩手県岩泉町の方言

——世代差による認識の違い——

坂本智美

女性間における「おまえ」の使用と許容の

広がりについて

菅井玲衣奈

ドラマの女性主人公の言葉遣いの変化

——オリジナル版とリメイク版の違いの

分析——

杉原ゆい

携帯メールに見られる敬意の認識

——目上の人を送る場合にタイトルと敬

語はどのようになるか——

田計公子

肯定的な「バカ」はどこまで浸透している

のか——現代大阪人は恋人のオデコをつ

つき「バーカ」と言うか——

戸谷真奈美

メディアの違いは役割語に反映するか——

小説とテレビドラマに出てくる老人語と

女性語を分析する——

中川花織

M-1グランプリにおける勝者・敗者の漫

才の違い

——勝ち組には共通点があった——

古谷紀子

八王子方言と日野方言の研究——「めぐ

らつたい」の意味を知っているか——

真木芳子

女性雑誌における見出し表現の特徴

——男性雑誌との比較や世代別・ファッ

ション系統別の分析を通して——

松本美緒

若者方言における身体語彙の呼称の変化

——「生まれつきのアザ」・「打撲傷のア

ザ」・「ホクロ」・「トゲ」について——

山下友理恵

「ピアスを開ける」の用法について

——語順の傾向を踏まえて——

和田宜子

若年層の名古屋弁について——生き残る名

古屋弁に特徴はあるのか——

綱嶋さやか

「生き残る若者ことば」と「消えていく若

者ことば」——10年前と比較した認知

率・使用率——

牧野和夫ゼミ

高野順子

谷崎潤一郎の喜怒哀楽に関する表現 母恋  
いものを中心として

伊藤紗智子

『一寸法師』と針く中世説話における針の  
力による研究史

谷渕ゆき子

源氏物語論——末摘花と藤壺の宮に使われ  
ている形容詞・形容動詞比較——

蝦名友美

熊野本地と動物たち

大槻華素美

『源氏物語』六条御息所論——物の怪の実  
態とその背景をめぐって——

遠藤萌

『義経と家臣団をめぐる最近の研究動向』

近藤晴香

『鉢かづき』の研究史

馬場ゆかり

『源氏物語』における女性像

——中世史から見た御伽草子——

篠原かおる

酒吞童子の三つの伝承にまつわる一考察

松村絵里子

源氏物語服飾論

夏目唯

建礼門院説話群の一考察

——源氏に愛された女たち——  
女性たちのファッションセンス——

——六道巡りを中心に——

奈良澤静香

「武士道」をめぐる一考察

——「だまし討ち」を軸に——

西川翔子

九条家本十六夜日記の位置

安藤多恵

『百鬼夜行絵巻』の成立順序と系統整理の  
一考察

丸山麻菜美

浦島太郎と竜宮と四方四季

横井孝ゼミ

磯端美希

落窪物語の構造